



多様性が学会の活力を生みだす



廣瀬 典昭

土木学会 第103代会長

若い行動力の多様性

最近、若い技術者や研究者の自発的な企画と運営による学会活動が増えていることを、とても頼もしく思います。岡山大学で開催された平成27年度全国大会では、若手会員パワーアップ小委員会主催の研究討論会が開催され、私もフロアーから議論に参加して、若い世代の新鮮な感性や発想に快い刺激を受けました。国際関連行事では、国際若手技術者ワークショップや日本への留学経験者による特別討論会が開かれ、その中でも若手技術者から新鮮で積極的な学会への提言を聞くことができました。委員会活動では、建設マネジメント委員会の将来ビジョン特別小委員会が「未来は土木がつくる。これが僕らの土木スタイル！」を出版しました。また、若手研究者の参画を促進させている研究委員会にも大きな期待を寄せています。

土木技術者の活動の多様性

土木技術者の活躍の場も学会の内から外へと拡大しており、世代や性別や領域にとらわれないその活動に、多様性の強みと可能性の奥深さを感じます。子どもたちや一般市民に土木を理解してもらうために、女性土木技術者のきめの細かい感性を取り入れて6年前にスタートさせたコンサルタント委員会市民交流小委員会主催の「土木ふれあいフェスタ」は、昨年の100周年事業を契機に支部活動へと展開しています。豊富な技術力と経験を蓄積した成熟シニア技術者も、市民活動やNPO法人との連携活動などを通して活発に活動領域を広げています。このように若手や女性、シニアの方々が、学会内外において、自発的に企画して主体的に行動を起こし、それに学会内外のさまざまな立場の方々に参画してもらい、共通の課題やその対応について一緒に考え、それぞれの知恵



多様化している学会活動：土木ふれあいフェスタin高知(2015年10月4日、出典: JSCE Webサイト)

と能力を出し合って行動していくことは、まさに「あらゆる境界をひらく」活動の実践につながるものです。

多様性のもたらす強さ

今、世界の企業や組織は多様化することで強さを発揮する方向に向かっています。たとえば、ラグビーワールドカップ2015での日本チームの大活躍が思い出されます。過去2度の優勝を誇る南アフリカから大金星をあげ、国内のみならず世界中のラグビーファンを驚かせたニュースをご記憶の会員諸氏も少ないと思います。この快挙の背景には、優れた指導者のもとに豊富な練習量をこなした強靱なチームをつくり上げてきたことが第一の要因だと思いますが、それに加えて多様性を取り入れることにより、出自にこだわらない人材の適材適所を徹底し、そのすべてのメンバーが日本チームのためという同じ目的と誇りを持って協働するという、多様性のもたら

す質の強さを見事に発揮できたことにもあったのではないかと思います。

多様性が生みだす活力

異なる背景や価値観を持った多種多様な人びとが同じ目的に向かって、それぞれが主体的に能力を出し合うには、お互いの共通理解を得るためのコミュニケーションが不可欠です。十分なコミュニケーションにより異質な人材間の意思の疎通が図られている組織は、同質で一様な構成員の組織と比べて、より多面的な見方や客観的な考え方が生まれやすくなります。さらに、受容範囲が広く思考が柔軟になり、国籍、年齢、性別などを問わず普遍的な対象と、合意形成や相互理解を醸成することが可能となります。互いの違いを認め合い、その多様性を尊重し合う風土をつくり続けていくことが、会員一人ひとりの活力を呼び起こし、そして、土木学会の活力を生みだすものと信じています。